Japan Geoscience Union Meeting 2012
(May 20-25 2012 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2012. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

APE33-02 会場:103 時間:5 月 23 日 16:15-16:30

西日本沿岸域における近過去の珪藻群集変化ー人為的環境改変に関するプロキシーとしての珪藻群集の有用性ー
Temporal distribution in diatom assemblages from coastal area in Western Japan: The usability of diatom assemblages as a

廣瀬 孝太郎 [1*], 吉岡薫 [2], 佐古恵美 [2], 入月俊明 [2], 瀬戸浩二 [2], 安原盛明 [3]
HIROSE, Kotaro[1*], YOSHIOKA Kaoru[2], SAKO Megumi[2], IRIZUKI Toshiaki[2], SETO Koji[2], YASUHARA Moriaki[3]

[1] 福島大学共生システム理工学研究科, [2] 島根大学, [3] 香港大学
[1]Fukushima University, [2]Shimane University, [3]The University of Hong Kong

珪藻群集は，観測記録の存在しない過去に遡って海洋の環境動態を解析するための有効な指標として知られている．しかし沿岸域においては，そこに生育する珪藻の分類生態，タフォノミーなどの知見が不十分である．そこで本研究では，西日本沿岸域の表層コアにおける近過去の珪藻遺骸群集変化が人為的環境改変（汚染や環境保全対策など）とどのように関連するかを検討し，環境変化のプロキシーとしての珪藻群集の有用性を評価した．瀬戸内海東部に位置する大阪湾の３本のコア（OS3-5）からは，人為的富栄養化に応答すると考えられる種群（assemblage1，2）が抽出された．講演ではさらに，これらの種群を瀬戸内海中部の播磨灘，西部の周防灘，および日本海沿岸の中海で採取されたコアの珪藻群集に適用し，指標としての普遍性を検討する．

キーワード: 珪藻群集, 沿岸域, プロキシー, 人為的環境改変, 富栄養化, 西日本
Keywords: diatom assemblage, coastal area, proxy, anthropogenic impact, eutrophication, Western Japan